

## 離島巡回診療研修に対する研修歯科医の意識について

吉田 礼子<sup>1)</sup> 石井 宏明<sup>1)</sup> 古川 周平<sup>2)</sup>  
岩下 洋一朗<sup>2)</sup> 田口 則宏<sup>1,2)</sup>

**抄録：**鹿児島大学病院の特色である離島巡回診療研修について報告するとともに、今後の離島巡回診療研修をより充実させるために、研修歯科医と指導歯科医の離島巡回診療へのとらえ方についてアンケートを実施した。その結果、離島巡回診療研修を体験した研修歯科医は、離島巡回診療の特色を指導歯科医と同様に認識しており、研修の満足度は概ね良好であった。その一方で、積極的に診療を実践する、島民とのコミュニケーションを図るなど離島巡回診療研修に対する期待は指導歯科医と違いがあった。今後は、研修歯科医が離島診療に貢献し、研修をさらに充実したものにするために、事前の勉強会や派遣チームでの情報共有・準備などを行っていききたい。

**キーワード：**離島巡回診療 研修歯科医 指導歯科医

### 緒言

鹿児島大学病院歯科医師臨床研修プログラムでは、平成18年度から離島巡回診療研修を実施している。離島巡回診療は、鹿児島県および鹿児島県歯科医師会が、無歯科医の離島に対して1984年より協同して定期的に行っているもので、本学歯学部は、鹿児島県歯科医師会から要請を受け、毎年20名以上の歯科医師を派遣している。希望する研修歯科医は、離島巡回診療の派遣医である指導歯科医とともにこれに参加することができる。毎年、研修歯科医の半数弱が離島診療への参加を希望しており<sup>1)</sup>、5～20名の研修歯科医が実際に参加している。これまで、この研修の充実に向けて、年間を通じて参加できるような研修スケジュールの調整、交通費負担や代休対応など、実施上の問題を改善してきた。それでも、地域歯科医療についての基礎を身につけ貢献するという研修目標の達成という観点からみると、いくつかの問題が指摘されていた。研修歯科医に聞き取りを行ったところ、研修の目的や習得すべき内容についての認識の確認、離島巡回診療に対する関心や期待などを検討し、研修歯科医のニーズもふまえたカリキュラムの構築が望まれていることがわかった。

そこで、今回、本院での離島巡回診療研修について報告するとともに、研修歯科医と指導歯科医に対して離島巡回診療のとらえ方についてアンケートを実施し、今後の離島巡回診療研修を充実するための方策を検討した。

### 対象および方法

平成26年度鹿児島大学医学部・歯学部附属病院研修歯科医26名と全12診療科で離島巡回診療経験のある指導歯科医30名を対象に調査を行った。

アンケートは、①離島巡回診療と大学病院での診療との違い、②離島巡回診療に必要なこと、③離島巡回診療における期待、④研修前後の離島巡回診療のイメージの違いについては自由記述式で、⑤離島診療の満足度については4段階評価での回答とした(図1)。加えて、離島巡回診療研修の振り返りについても検討した。

また、全12診療科で離島巡回診療経験のある指導歯科医30名を対象に、①離島巡回診療と大学病院での診療との違い、②離島巡回診療に必要なこと、③離島巡回診療における期待についてアンケートを行い比較した。

調査に先立ち、口頭および文書にて、調査主旨の説明を行い、同意を得てアンケートを実施した。アンケートは55名(研修歯科医26名、指導歯科医29名)から回答を得られ、回収率は研修歯科医100%、指導歯科医96.7%であった。研修歯科医の内訳は、5月から7月に離島巡回診療に参加した研修歯科医(以下、経験群と略す)13名、参加しなかった研修歯科医(以下、未経験群と略す)13名で、経験群は全研修歯科医の50%であった。また、指導歯科医の内訳は、臨床経験年数は平均15.1(6～30)年、専門分野は保存系4名、補綴系7名、外科系4名、小児発達系14名、

<sup>1)</sup>鹿児島大学医学部・歯学部附属病院歯科総合診療部(主任:田口則宏教授)

<sup>2)</sup>鹿児島大学大学院医歯学総合研究科歯科医学教育実践学分野(主任:田口則宏教授)

<sup>1)</sup>General Dental Practices, Kagoshima University Medical and Dental Hospital (Chief: Prof. Norihiro Taguchi) 8-35-1 Sakuragaoka, Kagoshima City, Kagoshima 890-8544, Japan.

<sup>2)</sup>Department of Dental Education, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences (Chief: Prof. Norihiro Taguchi)

離島巡回診療経験数は平均 4.3 (1～10) 回であった。

アンケートの自由記載は、氏名を伏せて電子データとして管理・整理し、これを分析資料として用いた。KJ 法<sup>2)</sup>を参考に一人の回答に複数の異なる内容が含まれる場合は、それぞれ 1 件として扱い、類似した意見をグループ化し、グループにラベルをつけ、カテゴリーとした。この作業は、著者を含む研修歯科医 5 名と、教員 (著者) 1 名で協議を繰り返して行った。

### 離島巡回診療研修の概要

鹿児島大学病院では、鹿児島県歯科医師会からの要請を受け、年十数回実施される離島巡回診療に歯科医師が参加している。研修歯科医においても希望者は、指導歯科医とともに離島巡回診療に同行することができる。平均的な派遣チーム構成は指導歯科医 2 名、研修歯科医 1～2 名、歯科衛生士 2 名、事務担当 1 名である。行程はフェリーで、巡回診療車内や集会場など仮設スペースでの診療が中心である。平成 26 年度は 5 月から 7 月の間に、計 7 回 13 名の研修歯科医が離島巡回診療研修に参加した (図 2)。

### 結 果

離島巡回診療における大学病院での診療との違いについて、離島巡回診療は、診療のための設備や材料、時間、体制に制限があり、そのため、治療の方法やゴールが限られたり、多様な状況に対応したりしなければならないことを、研修歯科医・指導歯科医ともに多くあげていた (図 3)。

離島巡回診療で必要なことについては、指導歯科

医、研修歯科医 (経験群) 共に、診療技術・知識・経験と離島診療に取り組む前に患者情報の引き継ぎ・現地の状況把握を行う等の準備・姿勢に関するものが多かった。研修歯科医 (未経験群) でも同様な項目があがっていたが、具体性がなく、健康教育や患者指導といった予防的観点についてはなかった (図 4)。

離島巡回診療において、指導歯科医が研修歯科医に期待することとして、離島研修への姿勢、診療内容、離島診療に関わる人とのコミュニケーション、離島診療の理解があった。一方、研修歯科医は、離島ならではの診療に主体的に係わること、島民とのコミュニケーションを希望していた (図 5)。

研修歯科医は、離島診療について、診療時間が長い、講話や保健指導がある、介助が多いなど診療現場での状況、島民の歯科への関心が高いあるいはそうでもない、う蝕の患者が少ないあるいは多い、子供や若い患者が多い、患者が少ないなど島民の治療に対する意識・ニーズ、設備・器材が想像以上に整っていない、診療所でなくても結構治療ができるなど、研修前のイメージと比べて様々な違いを感じていた (図 6)。

離島巡回診療研修を体験した研修歯科医の満足度は 3.18 (4 点満点) と概ね良好であった。振り返りでは、責任と緊張感、限られた資源の中での診療の工夫、島民との信頼関係、積極的な離島医療への取り組みなどがあつた (表 1)。

### 考 察

地域医療の意義を認識する上で、地域医療のさまざまな現場を体験することは極めて重要である<sup>3)</sup>。鹿児島県は有人離島を多く有し<sup>4)</sup>、県の事業として県歯科医師会が実施する離島巡回診療<sup>5)</sup>には鹿児島大学病院の歯科医師が多く参加している。本院歯科医師臨床研修の特色あるカリキュラムとして、平成 18 年度から、研修歯科医が巡回診療に参加して研修を行っている。これまでもカリキュラムの改善を行ってきたが、研修の管理者、指導歯科医主導の運営上の問題解決にとどまっていた。今回は、研修歯科医からの聞き取りに始まり、問題点の抽出、調査計画、実施、検討という一連のプロセスを、研修歯科医主導で指導歯科医も一緒になって取り組んだところにひとつの意義があると考えられた。

本調査で、離島巡回診療研修に参加した研修歯科医は、離島診療には制約があり、その上で多様な状況に対応しなければならないこと、そのためには、離島診療に対応しうる診療技術・知識・経験と離島診療に取り組む姿勢・準備が重要であるととらえていた。これは、離島巡回診療に参加した経験のある指導歯科医と同様であった。同じ項目でも未経験群は抽象的な表現が多く、健康教育や患者指導といった予防的観点が挙

離島巡回診療研修に関するアンケート (研修歯科医用)	
	記載日:平成 年 月 日
No.	離島診療研修の有無 (有・無)
	プログラム:①大学病院A ②大学病院B ③地域歯科医療
	(質問:記述式)
1.	離島巡回診療と大学での診療の違いは何だと思いますか
2.	離島巡回診療に必要なことは何だと思いますか?それを実現するためにはどうすればよいと思いますか?
3.	離島巡回診療研修で期待・希望することは何ですか? (参加者のみ)
4.	離島に行く前の離島巡回診療のイメージと、実際に行った後の違いは? (参加者のみ)
5.	離島診療研修の満足度は? (参加者のみ)
	①とてもよかった ②よかった ③あまりよくなかった ④よくなかった
6.	離島巡回診療を振り返って(参加者のみ、別紙記載ください)
	ご協力ありがとうございました。

図 1 離島巡回診療研修に関するアンケート (研修歯科医用)

日程	巡回先	派遣研修 歯科医数
5/26(月)~5/30(金)	黒島	2
6/3(火)~6/5(木)	中之島・平島・ 口之島	2
6/20(金)~6/22(日)	諏訪之瀬島	2
6/27(金)~6/29(日)	諏訪之瀬島	2
7/4(金)~7/6(日)	諏訪之瀬島	1
7/11(金)~7/13(日)	諏訪之瀬島	2
7/18(金)~7/23(水)	小宝島・宝島・ 悪石島	2



下線は巡回先, <sup>4)</sup>から引用一部改変

図 2 離島巡回診療研修の概要

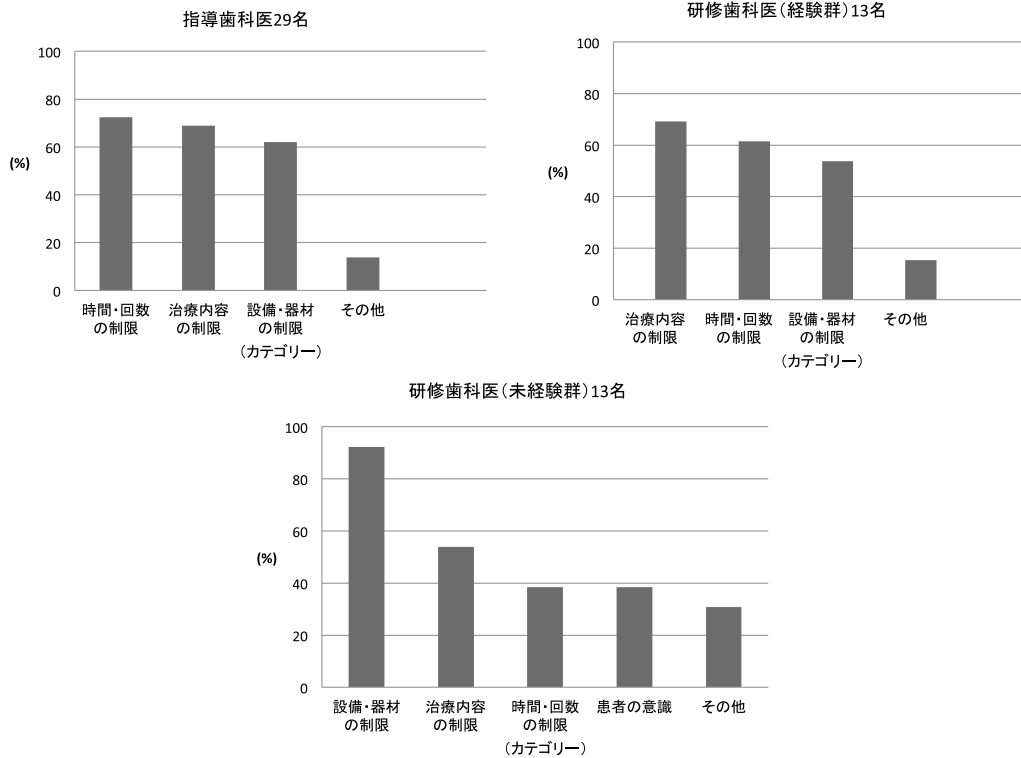


図 3 離島巡回診療と大学病院診療の違い

がっていなかった。学生企画のフィールド型地域実習では、離島へき地医療についてのイメージや地域医療は何かという問いに対して、プレアンケートでは抽象的なコメントが多く、ポストアンケートでは直接問近で視たからこそ得られる具体性を持ったコメントが見られたとの報告がある<sup>6)</sup>。また、短期間の地域医療実習でも医療システムや医療におけるプロフェッショナルリズムについて一定の教育効果<sup>7,8)</sup>があるとされる。本

結果でも、研修歯科医は離島巡回診療研修に参加したことで、離島診療に対する理解を深めたと推察された。離島巡回診療研修で、指導歯科医は研修歯科医に対して、離島診療の理解、診療を行う為の準備や診療に参加する姿勢を重視し、診療関係者とコミュニケーションをとりながら診療に携わることを期待しているが、研修歯科医は離島ならではの診療に主体的に係わること、島民とのコミュニケーションを希望してお

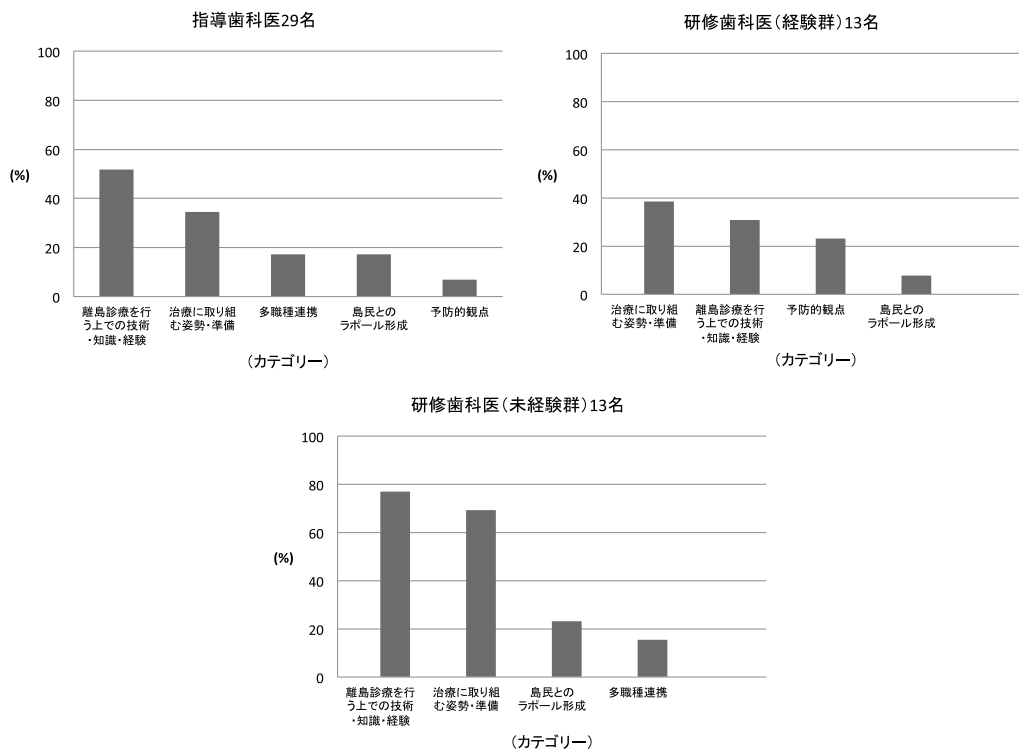


図 4 離島巡回診療に必要なこと

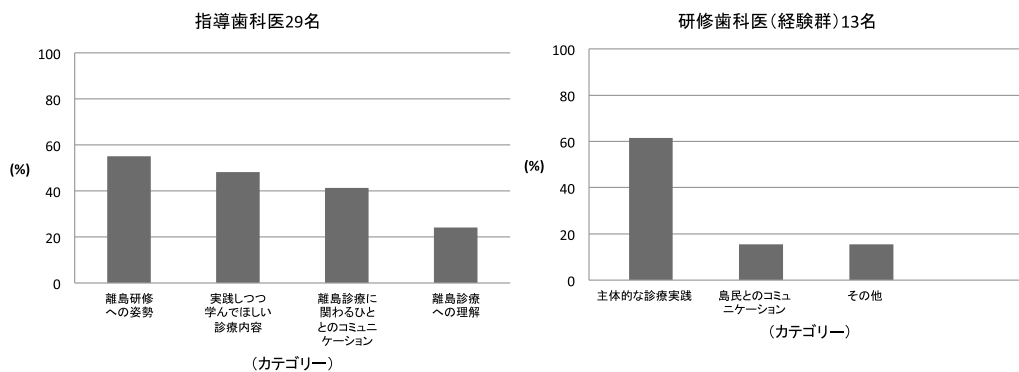


図 5 離島巡回診療研修において期待すること

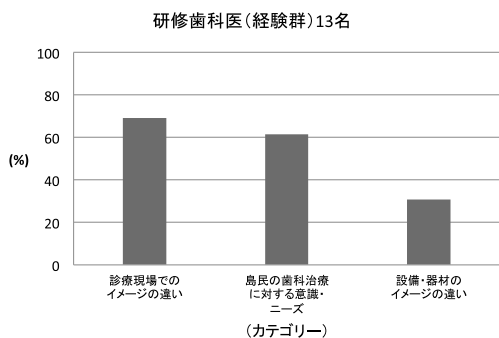


図 6 研修前後の離島巡回診療のイメージの違い

り、違いがあった。この研修を、指導歯科医は、離島診療やチーム医療の現場を体験するために研修歯科医が同行する場として捉え、一方、研修歯科医は一員として参加する場と期待しているといえる。離島巡回診療では、「限られた機会なので、しっかりとした体制で診療をしてほしい」という住民の方の要望がある。宮田らは、地域医療実習で学生は、知識、コミュニケーション、医療技術、臨床推論などの一般的な医学知識を得ており、地域、家族に関する学びはあるが全体に占める割合は高くなかったと報告した<sup>9,10)</sup>。学習を個人の知識、技能獲得過程としてではなく、実践共同体への参加過程としてとらえる状況的学習<sup>11)</sup>という考えからすると、離島診療の理解は、離島や離島診

表 1 離島巡回診療研修の研修歯科医の振り返り (抜粋)

---

<p>&lt;責任と緊張感&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ただ助手のつもり, アシストのつもりという軽い気分であったが, 指導医やスタッフと協力しお互いに自ら働かないと診療が回らないということがよく分かった。</li> <li>・「責任が大変重い」そう感じた。</li> <li>・診療の時以外でも島の人たちに見られているのだなと緊張感と責任感を感じた。</li> </ul> <p>&lt;診療の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設備や材料が大学病院のように整っておらず, 不便に思うことがあったが, 揃っているものでスタッフ一同協力し合って最大限の治療を行うことができた。</li> <li>・X線写真の現像は台所や洗面所を使用したりして, 最大限の治療を行うことができたのではないかと思う。</li> </ul> <p>&lt;島民との信頼関係&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・診療する歯科医師と島民との間にしっかりとラポールの形成がされている。</li> <li>・島民との信頼関係があるからこそ, 仕事の合間を縫って診療を受けに来てくれるのだと感じた。</li> </ul> <p>&lt;積極的な離島医療への取り組み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来る人だけでなく, 訪問などして, 島民の理解を深めたい。</li> <li>・歯科診療の呼びかけは看護師さんがしてくれるそうだが, われわれ歯科医からも何らかの働きかけが必要なのではないか。</li> <li>・診療, 予防, 指導など, なんでもできることを積極的に実施したい。</li> </ul>
--

---

療の場に参加することで学ぶことであるので, 指導歯科医は, 住民のニーズに応えながら, 研修歯科医の希望を生かし研修の意義を高めていくために, 同行見学を一步進めて実践的な関わりを増やす工夫が必要であると考えられる。

研修前後の離島巡回診療のイメージの違いは様々であった。「離島」に抱くイメージは個人によっていろいろであるし, 離島診療といっても, 島の大きさ, 人口, アクセスなどの状況によって大きく異なり, 文化や医療環境にも違いがある。離島の診療所で一定期間研修すると, 地域社会の医療の役割の理解, 地域ニーズに対応する能力を習得・習熟することができるが, 本研修は, 巡回することで, 地域や患者の多様性をより実感することができるフィールドともいえる。

地域医療のコンテクストはプロフェッショナルリズム教育に有用であるとされるが<sup>12)</sup>, 研修歯科医の離島巡回診療研修の振り返りでも, 医療者としての役割, 責任, 患者との信頼関係, 協同などの記述がみられた。

研修歯科医のニーズを踏まえ離島巡回診療研修をさらに充実させるためには, 離島診療に必要なこととして挙げられていた診療技術・知識・経験と, 離島診療に取り組む前に患者情報の引き継ぎ・現地の状況把握を行う等の準備・姿勢について方策を検討する必要がある。一般的な歯科医療技術を高めていくことはもちろんであるが, 事前に, 離島診療の特色を学ぶ, ポータブルの機材に慣れるなど離島診療に関する勉強会を開催したり, 参加するチームでの打ち合わせを通じて情報共有したりなどの対策をさらに講じることが有用であると考えられた。それによって, 研修歯科医はレディネスを整えて離島診療に臨み, 現場で実践的に貢献できると考える。さらに, 離島診療で, 研修歯科医に期待されることを理解したうえで診療に臨むことにより, 研修の意義がさらに深まると推察された。

## 結 論

鹿児島大学病院歯科医師臨床研修における離島巡回診療研修について, 研修歯科医および離島診療経験のある指導歯科医を対象としてアンケートを実施した。その結果, 離島巡回診療研修を体験した研修歯科医は, 離島巡回診療の特色を指導歯科医と同様に認識しており, 研修の満足度は概ね良好であった。その一方で, 積極的に診療を実践する, 島民とのコミュニケーションを図るなど離島巡回診療研修に対する期待は指導歯科医と違いがあった。今後は, 研修歯科医が離島診療に貢献し, 研修をさらに充実したものにするために, 事前の勉強会や派遣チームでの情報共有・準備などを行っていきたい。

本研究に関して, 開示すべき利益相反はない。

## 謝 辞

最後に, 本調査にご協力いただきました, 鹿児島大学病院の平成 26 年度研修歯科医および指導歯科医の皆様へ深く感謝申し上げます。

## 文 献

- 1) 志野久美子, 諏訪素子, 吉田礼子, 松本祐子, 岩下洋一朗 他. 鹿児島大学病院における離島診療研修の現状分析. 日本総合歯科協議会雑誌 2013; 5: 108-110.
- 2) 川喜田二郎. 発想法—創造性開発のために. 第 86 版. 東京: 中央公論新社; 2012. 65-11.
- 3) 中嶋弥穂子, 荒木良介, 中里未央, 前田隆浩, 白濱 敏他. 長崎県五島列島での医薬共修による地域医療実習の実践. 医療薬学 2011; 37: 457-465.
- 4) 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科国際島嶼医療学講座地域医療学分野 / 離島へき地医療人育成センターホームページ. <http://www.kufm.kagoshima-u.ac.jp/~ecdr/remot-islands.html> (最終アクセス日 2014. 8. 8).

- 5) 鹿児島県歯科医師会オフィシャルサイト. <http://www.8020kda.jp/traveling/> (最終アクセス日2014.8.8).
- 6) 羽柴 淳, 川木詠美, 上原周悟, 座間味知子, 武村克哉. 学生企画のフィールドワーク型地域実習に関する報告. *Ryukyu Med J.* 2011; 30: 61-67.
- 7) 石川雅彦, 前沢政次. 卒前医学教育におけるプライマリ・ケア実習. *医学教育* 2004; 35: 327-330.
- 8) 信岡祐彦, 亀谷 学. 医学部5年生に対する短時日学外診療所実習の意義と今後の課題. *プライマリ・ケア* 2007; 30: 53-56.
- 9) 宮田靖志, 八木田一雄. 地域医療実習で学生は何を学ぶのか? ポートフォリオ内の振り返りシートの分析. *医学教育* 2010; 41: 179-187.
- 10) O'Toole TP, Kathuria N, Mishra M, Schukart D. Teaching professionalism within a community context: perspectives from a national demonstration project. *Acad Med* 2005; 80: 339-343.
- 11) ジーンレイヴ, エティエンヌウエンガー著. 佐伯胖訳. 状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加. 東京: 産業図書; 1993. 183-191.
- 12) 宮田靖志, 八木田一雄, 森崎龍郎, 山本和利. 地域医療必修実習における“Significant Event Analysis (SEA) を用いた振り返り”の検討. *医学教育* 2008; 39: 153-159.

#### 著者への連絡先

吉田 礼子  
〒890-8540 鹿児島市桜ヶ丘8-35-1  
鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 歯科総合診療部  
TEL 099-275-6049 FAX 099-275-6049  
E-mail: rei@dent.kagoshima-u.ac.jp

## Dental Residents' Attitude toward Clinical Training at Remote Islands

Reiko Yoshida<sup>1)</sup>, Hiroaki Ishii<sup>1)</sup>, Syuhei Furukawa<sup>2)</sup>, Yoichiro Iwashita<sup>2)</sup>  
and Norihiro Taguchi<sup>1,2)</sup>

<sup>1)</sup>General Dental Practices, Kagoshima University Medical and Dental Hospital

<sup>2)</sup>Department of Dental Education, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences

**Abstract :** A questionnaire about clinical training at remote islands, that is characteristic of Kagoshima University Medical and Dental Hospital, for dental residents and instructors in post-graduate clinical training was investigated. As results, both instructors and residents who experienced clinical training at remote islands thought this training in the same way and were satisfied. On the contrary, expecting degree in active training of treatment and communication to inhabitants were different between instructors and residents. Prior preparations and information sharing were need for more contribution to clinical training at remote islands.

**Key words :** clinical training at remote islands, dental residents, dental clinical instructors